

男子 阿波2連覇 徳島市立女子

弓道

全国高校選抜県予選

弓道の第37回全国高校選抜大会徳島県予選最終

日は4日、鳴門弓道場で男女団体の予選後半と決勝リーグが行われた。男子は阿波が2年連続3度目の頂点に立ち、女子は徳島市立が2年連続6度

目の優勝を果たした。両校は全国大会(12月24日)26日・岡山市のジッパアリーナ(岡山)に出場。上位4校は第16回四国高校新人大会(11月18日・高知県立弓道場)の出場権を獲得した。

【男子】団体予選(24射)①徳島市立20中②名西、城南15中③阿波14中④城東、池田、小松島西、つるぎ13中⑤富岡東、徳島北12中

【女子】団体予選(24射)①徳島市立16中②阿波15中③富岡西、徳島市立14中④城東、城内、徳島科技13中⑤小松島西、池田12中

的中数上回り 女王の座を守る 徳島市立

富岡東11中①鳴門渦潮10中②つるぎ、脇野、徳島南9中③城南、鳴門、阿南高専8中④城北、名西7中⑤那賀4中⑥上位4校が決勝リーグへ。

▽決勝リーグ(36射)①徳島市立(岡本、武市、島津、竹花)2勝1敗28中②阿波2勝1敗24中③徳島北1勝2敗25中④富岡西1勝2敗20中

数で4本上回り、女王の座を守った。岡本主将は全勝優勝できなかったことを反省しつつも「2試合目で負けてムードが悪く、しっかりと立て直すことができた」とほっとした表情で喜んだ。

1勝1敗で迎えた富岡西との最終戦。大前の岡本主将とともに皆中した中立ちの武市は「空回りしていた気持ちをうまく的に集中させることができた」。精神面の弱さが課題という落ちの島津は「気持ちで負けないように」と自分に言い聞かせながら射た」と3中で締めくくった。

武市と、この日の団体予選に出場した竹花が挑んだ昨年の全国大会は予選落ちした。上位進出の鍵は好不調の波を抑え、いかに良い状態をキープし続けられるか。常に試合を意識した練習を心掛けていたという岡本主将は「徳島を代表して行く以上は優勝を目指す」と口元を引き締めた。

(石津 遼)